

寶聚寺（久喜市）

京都に室町幕府を開いた将軍・足利尊氏は、東国支配の要として鎌倉に鎌倉府を置いた。鎌倉府の長官には尊氏の息子・基氏が就き、関東官僚の上杉氏が補佐するという体制が敷かれた。しかし、次第に鎌倉府の長官は関東官僚と対立自らを鎌倉公方と称し、將軍職への野心を抱くようになると、幕府に反して行政や軍事面で独自の権限を行使するようになった。第5代の鎌倉公方・足利成氏は、上杉氏と激戦を繰り広げ、拠点を鎌倉から古河に移したことから、古河公方と称した。古河公方は関東の諸將たちを味方に強大な勢力を誇り、当時、東国の中心的な存在だったようだ。この成氏には雪下殿と呼ばれた弟・尊徹がいた。尊徹は鎌倉時代から幕府の厚い保護を受けてきた鶴岡八幡宮と足利氏の祈願寺・鍬阿寺の別当（最高責任者）を兼務していた。当時、鶴岡八幡宮の最高責任者は古河公方に次ぐ地位で、鎌倉時代から源氏や北条氏の一族が任命されてきた関東宗



寶聚寺

教界のトップの座ともいえるものであった。しかし、これまでは雪下殿が成氏とともに鎌倉を離れた後、古河に入らずどこで権力を行使していたか謎とされてきた。ところが近年、足利氏研究で知られる千葉大学の佐藤博信教授が雪下殿は高柳（埼玉県栗林町高柳）に住んでいたという有力な説を自らの著書で発表（中世東国の支配構造）し、尊徹は高柳で公方権力の一翼を担い、隠居後の明応2年（1493年）寶聚寺を創建したのである。
（東武朝日新聞2008年4月11日第672号より）



飯香岡八幡宮（市原市）

市原市は千葉県のほぼ中央に位置し、面積は約367km²に及ぶ広域都市であり、地域の北は千葉市、東は茂原市・長柄町・長南町、南は大多喜町・君津市、西は木更津市・袖ヶ浦市の5市3町に接しています。東京からほぼ50km圏内にあり、飯香岡八幡宮の鎮座地、八幡宿は、東京から直線で約12kmという至近に位置しています。市原市の交通網は、海岸部をJRR内房線及び国道16号が連絡し、中央部を、東には国道409号が連絡しており、南北には、小湊鉄道及び国道297号が縦断しています。

ばれる由緒ある古社であり、武家の尊崇が篤く、3代將軍足利義満は神輿4基（現存）を寄進したと伝えられています。また、現存の本殿は室町時代中期の建築と推定されていて国の重要文化財に指定されています。

近代的なまちづくりのすむ市原市は、足利氏の関わりを持つ飯香岡八幡宮のあるまちでもありません。この八幡宮は白鳳年間の創建とされ、また一国一社の国府八幡宮とよ



飯香岡八幡宮

